令和四年一月鹿ノ台川柳教室誌上句会　優秀句

お題「正月」（連記）山神きよな選

年賀状出さないけれど待っている　仁　史
童謡に歌い継がれていく文化　郁　子
大家族質より量のおせち買う　幸　男
初詣でいきかう人はけがれなし　ミノル
門松を印刷にして三箇日　正　清
元旦は犬にもちょっとお年玉　英　二
ワイフに言えぬ冷や汗ものの初夢だ　千　楽
夜明けまで待てぬお節のつまみ食い　基　弘
めでたいと氏神様のご到着　ちさと
満年齢歳さえ取れぬお正月　義　雄
寝正月氏神さんへ初さんぽ　えいじ
双方の田舎の雑煮食べ比べ　充
除夜の鐘余韻残しておめでとう　乃り子
元旦のお屠蘇のようくまわること　広　子
煩悩がまだまだあって初参り　アキラ
お雑煮も嫁いだ先の味に慣れ　佳　代
ご無沙汰の顔を浮かべてみる賀状　よう子
秀　寿ぎの人間みてる鏡餅　哲　子
軸　年金から年玉に羽飛んでゆく　きよな

お題「やれやれ」澤山よう子選

口げんか先に話した方が楽　佳　代
合格したらカネのいる話だけ　千　楽
子供部屋二段ベッドも物置に　英　二
おまちどうラインが来ても誤変換　ちさと
再会の孫反抗期手を余す　アキラ
金と暇できてコロナに邪魔される　仁　史
誕生日やれやれ又も生き延びた　佳　代
時間ある無いのは一つやる気だけ　幸　男
親子して安堵の笑顔無事生まる　充
峠道頂に座す素戔嗚社　基　弘
ローン済みゆとりもできて気も軽く　英　二
ローン返済抵当権も解除され　義　雄
子育てのゴール介護のスタートに　郁　子
受験子にコロナと寒波待ったなし　正　清
秀　くずし字になって心はかすれてる　よう子
軸　疫病神今年も同居すると言う

お題「群がる」五十嵐千楽選

ワゴン前何を売るやら並んどこ　佳　代
子雀も餌くれる人知っている　えいじ
お麩一つパクパク大口池の鯉　佳　代
泡立てて餌にとびつく雑魚の群れ　よう子
まん延防止叫べど街は人だかり　アキラ
群れにいて虎視眈々と転機まつ　よう子
流されて群がる中にいる不安　哲　子
号外に右手左手スマホの手　義　雄
群嫌う孤独が好きな君だった　きよな
群がる程の高齢者看る子はまばら　乃り子
やじ馬のひとりと気付き苦笑する　ミノル
群がらずまた流されず我が道を　郁　子
省エネと集まる部屋の温かさ　幸　男
群生に一眼レフの矢を放つ　正　清
秀　分かち合うひと集まれば戦なし　乃り子
軸　モナリザだけに行列の美術展　千　楽

自由吟（共選）森里えいじ選

ありがとう言えばこだまの温かさ　アキラ
手抜きしてカレーパン買うカレーの日　英　二
枯木立グチの一つも言えばよい　アキラ
フェルメールその静けさに立ち尽くす　郁　子
カップルでお早うさんと小鳥さん　仁　史
どうしてる住所録から消えた人　哲　子
紅白をＢＧＭにこまねずみ　広　子
控え目に笑いも戻る一周忌　義　雄
無駄骨と思う雑学活きてくる　よう子
包容力あるが足らない貯金高　乃り子
弱いとこ見せずじまいの５０年　ちさと
字が書ける年まで賀状だす気概　哲　子
同じ目でじっと僕見る犬と孫　英　二
妻旅行お膳の上に非常食　基　弘
秀　メルカリに出して娘がご購入　ちさと
軸　ご近所に手すりの付いた家が増え　えいじ

自由吟（共選）奥村義雄選

包容力あるが足らない貯金高　乃り子
枯木立グチの一つも言えばよい　アキラ
フェルメールその静けさに立ち尽くす　郁　子
どうしてる住所録から消えた人　哲　子
同じ目でじっと僕見る犬と孫　英　二
寒さに耐え芽吹く草花見習おう　きよな
字が書ける年まで賀状だす気概　哲　子
ありがとう言えばこだまの温かさ　アキラ
無駄骨と思う雑学活きてくる　よう子
十二分の一年終わりもう二月　乃り子
コンサート果て電飾の冬の街　郁　子
ご近所に手すりの付いた家が増え　えいじ
お銚子が三本からはネコがトラ　広　子
妻旅行お膳の上に非常食　基　弘
秀　下積みの石がいだいている野心　よう子
軸　控え目に笑いも戻る一周忌　義　雄